

体育科学習指導案

令和 7年 月 日 第 校時
3年 組 名

1 単元名 「ポートボール」

2 単元について

(1) 教材観

ポートボールは、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、動きやルールを工夫した易しいゲームをし、集団対集団で友達と力を合わせて競い合う楽しさや喜びに触れることができる、「ゴール型ゲーム」の運動である。ボールを味方のゴール台上のゴールマンにシュートして得点する球技であり、攻守入り交じってゲームを展開していく。友達と作戦を選んで力を合わせてシュートを決める楽しさや、身に付けた基本的なボール操作とボールを持たないときの動きでゲームを楽しむことを、本単元を通して十分に味わえるようにしたい。

(2) 児童観

本学級は、運動に関心を持ち、体を動かすことが楽しいと感じている児童が多く、休み時間には運動場でドッジボール等をして遊ぶ姿も多く見られる。体育の授業においても、男女ともに意欲的に活動し、水泳運動やマット運動では自分の課題に対して、友達と話し合ったり、いいところを伝え合ったりし、前向きに挑戦する場面が見られた。一方、チームで協力するタグラグビーでは仲間との関わり方や話し合いが十分にできず消極的になってしまう児童がいた。また、ボール運動の経験値によって、すぐに動くことができる児童とそうでない児童が二極化しており、勝つことにこだわりすぎるために自己中心的に活動している児童も数名見られた。

ポートボールではボールをパスやドリブルでつないでシュートするまでの過程の中で、力を合わせてプレーする楽しさを一人一人が味わうことができるようにしたい。ときには意見の対立によってチーム内でぶつかることもあるかもしれないが、作戦を選んだ際の話し合いや、チームで考えた練習に取り組む場面を通して、互いの考えやプレーを尊重し合えるようにしたい。

(3) 指導観

ポートボールは、ボールを持っていない児童も常に動いて、味方のパスコースをつくることや、守備の位置を考えることが求められる運動である。本単元では、パスやドリブル、シュートをするという基本的なボール操作を使ってポートボールを楽しむことを、まずは児童と教師が共有したい。その上で、児童一人一人がチームの一員としての自分の役割を考え、友達と協力しながら夢中になってポートボールに取り組むことができるようにしたい。

単元の初めには、ポートボールの楽しさを実感できるようにするために、ゲームの時間を多く取り入れ、ポートボールに必要なパスやシュートなどの基本的な動きを習得するための運動、シュート・ドリブル・パスチャレンジに取り組む。単元の後半では、作戦を選びゲームをする。本時では、前時に選んでおいた作戦をゲームで試すことを通して、シュートにつなぐまでに友達と協力しながら達成できるようにしたい。教師は、児童が作戦を形にしようとする姿を支援し、うまくいかなかったときにも次の手を考えられるような問いかけの準備や、児童の変容に気付くことができるようにしたい。児童それぞれが課題解決をしながらシュートに至るまでの過程を見取り、「どのように取り組もうとしているか」に着目し、意欲に繋がるような声かけを絶えず行っていきたい。

3 単元の目標

(1) 【知識及び技能】

ポートボールの行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たない時の動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。

(2) 【思考力、判断力、表現力等】

規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。

(3) 【学びに向かう力、人間性等】

ポートボールに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ポートボールを基にした易しいゲームの行い方について、言ったり書いたりしている。 ②パスを出したり、シュートをしてゲームをすることができる。 ③空いている場所に素早く動くなどの易しいゲームをすることができる。	①規則を工夫している。 ②ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んでいる。 ③課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。	①ポートボールに進んで取り組もうとしている。 ②規則を守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ③用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④勝敗を受け入れようとしている。 ⑤友達の考えを認めようとしている。 ⑥場や用具の安全に気を付けている。

5 指導と評価の計画 (8 時間)

時	1	2	3	4	5	6 (本時)	7	8	
学 習 活 動	0		シュートやドリブル、パス練習 に取り組み、ゲームをしよう。			作戦を選び、ゲームをしよう。			
		オリエンテーション							
		1 挨拶	1 準備 2 挨拶 3 本時のめあてを確認する 4 準備運動						
	15	2 単元の見通しをもつ	5 ゲーム			5 作戦で取り入れたい動きをつくる運動に取り組む ・選んだ作戦に合う動きを確認する。 ・スペース作戦 ・パスパス作戦 等	5 3年生みんな集合! ポートル大会		
		3 準備運動をする	6 ゲームにつながる運動に取り組む ・シュートチャレンジ ・ドリブルチャレンジ ・パスチャレンジ			6 ゲーム①をする ・5分			
		4 試しのゲーム	7 チーム練習			7 ゲーム①の振り返りをする			
			8 振り返り			8 ゲーム② ・5分			
30		9 ゲーム ・5分			9 ゲーム②の振り返りをする				
		10 ゲームの振り返り			10 ゲーム③をする				
	5 本時を振り返り、次時への見通しを持つ	11 本時を振り返り、次時への見通しを持つ 12 片付け 13 挨拶					6 単元の振り返り		
45	6 片付け						7 片付け		
	7 挨拶						8 挨拶		
評 価 の 重 点	知識・技能		①観察		②観察		③観察		
	思考・判断・表現				①観察	②観察 ワークシート	③観察 ワークシート		
	主体的に学習に取り組む態度	⑥観察	③観察	②観察 ワークシート	④観察	⑤観察	①観察 ワークシート		

6 本時（6／8時）

(1) 目標 ゲームに参加し、ポートボールに進んで取り組むことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
3分	1 本時の学習課題をつかみ、見通しをもつ。	○確認をすることで、めあてを意識しながら、本時に取り組むことができるようにする。		
ゲームに参加し、ポートボールに進んで取り組もう				
7分	2 準備運動をする。 ・ストレッチ ・チーム練習	○動き方が分からない児童には、作戦にあった具体的な動きについての声かけを行い、取り組むことができるようにする。		
26分	3 ゲームをする。 ・グループ対抗ゲーム×3 ・作戦と振り返りタイム	○ポートボールに進んで取り組んだり、作戦と振り返りタイムの時に動きにつながる話し合いができたいたりしているチームを称賛し、意欲的に取り組むことができるようにする。 ○振り返りをするとき、進んでいないチームがいる場合は、振り返る視点を焦点化して振り返りができるようにする。	○ゲームに参加し、ポートボールに進んで取り組むことができる。	観察
7分	4 本時の学習のまとめをする。 ・試合の反省点をワークシートに記入する。感想や疑問に思ったことを発表し、共有する。	○振り返りをときは、ワークシートやホワイトボード用い、チームで考えた作戦や自分のめあてについて振り返ることができるようにする。 ○自分や友達の動きを共有し、次時につなげることができるようにする。	○ポートボールに進んで取り組んだ様子をワークシートに記述している。	ワークシート
2分	5 片付け、挨拶			

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	易しいゲームに進んで取り組み、積極的にボールに関わったり、友達に声をかけたりしながらゲームをしようとしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	作戦と振り返りタイムの時に、教師も入り、具体的な動きを動きながら確認することでどのような動きをしたいのかを明確にする。 ゲーム中は教師も一緒にコート場で動いたり声をかけたりして、児童が安心してポートボールに取り組むことができるように助言する。